

城陵会(恵那高等学校同窓会)でこれまでに行われてきた周年事業についてご紹介します。

第2回 昭和47(1972)年「創立50周年の記念式典・行事」

東京オリンピック、大阪万国博と国をあげての大イベントを終え、翌年に中央西線は複線電化完了し、D51・C12も姿を消すとアナウンスされる一方で、新幹線の岡山まで延伸、東名高速と中央道が小牧JCTで直結となったその年に恵那高校は50周年を迎えました。

50周年記念事業・行事について、70周年記念誌「城陵七十年」によりご紹介します。

創立50周年記念祭

昭和57(1972)年、恵那高校は、創立50周年を迎えた。記念事業として取り組まれた「城陵誌」、および同窓会員名簿の編纂は、昭和37(1962)年8月25日の火災により、貴重な資料が焼失したため、困難をきわめた。しかし、多くの同窓生の協力のもとに、半世紀の歩みを復元することに成功した。

記念祭は、同窓会と学校が一体となって、5日間にわたり盛大にくり広げられた。

9月16日には、台風襲来直前の雨天の中、同窓会主催、記念ゴルフ大会が行われた。参加者80名、旧中15回生の安藤秀一氏が優勝された。



9月17日、校歌の作詞者、所三男氏を迎えて、記念碑の除幕式が行われた。記念碑は、当時、正面玄関向かって左側の庭園の中に建立された。高さ3m、幅2.5mの蛭川産の自然石に、校歌1、2番)を刻み、裏面に沿革略史を記したものである。校歌の文字は所三男氏の筆になるものであり、沿革略史は、本校の鈴木茂男教諭によって書かれたものである。記念碑の周囲には、県樹「いちい」、校樹「花の木」が植えられた。

正面玄関向かって左の庭園内にあった島崎藤村先生とのことなど、校歌にまつわる所氏のせっかくの講演が十分聞きとれなかった点は、惜しんでもあまりある一事であった。

また、午後には、記念祝賀会が、恵那市体育館において行われ、200名が参加した。

9月18日には、記念式典が250余名の来賓を迎えて、恵那高校で、盛大に行われた。また、午後には、名古屋放送管弦楽団の記念演奏会が行われた。

9月19日・20日・21日は生徒中心の城陵祭へと移っていった。

前夜来の台風の影響で、当日は停電し、マイクが使えず、



60周年事業で玄関右、用務員室前へ



新校舎となって現在の位置

記念行事日程

▽9月17日(日)

9:30 記念碑除幕式 (於恵那高校)

10:00 記念臨時同窓会総会(於恵那高校体育館)

11:00 在校生の第24回城陵祭展示参観

12:30 記念祝賀会(於恵那市体育館)

▽9月18日(月)

10:30 記念式典(於恵那高校)

13:00 城陵祭開会式

13:20 名古屋放送管弦楽団記念演奏会

校歌碑は3度の移動をしましたが、そのいずれもが正門から校舎への導線上で生徒・職員・保護者・同窓生を迎える位置に設置されてきました。その位置は卒業生・離任者を見送る位置でもあります。そして、令和4年春に校歌碑は50回目の卒業生見送りをすることになります。